

G 8 環境大臣会合 議長総括（抄）

於：神戸
2008年5月24～26日
仮訳（暫定版）

1. G 8の環境担当大臣および欧州委員会委員は、5月24日から26日にかけて神戸において一堂に会した。会議にはアンティグア・バブーダ、オーストラリア、ブラジル、中国、インド、インドネシア、メキシコ、韓国、スロベニア、南アフリカの大臣および高官、ならびに地球環境基金（GEF）、地球環境国際議員連盟（GLOBE）、国際自然保護連合（IUCN）、経済協力開発機構（OECD）、国連環境計画（UNEP）、世界銀行、バーゼル条約事務局及び気候変動枠組条約（UNFCCC）事務局の長・高官も参加した。この会合は、7月に開催される北海道洞爺湖サミットに向けてG 8の環境担当大臣として適切なインプットを与えることを念頭に開催された。
2. 会議は、現在国際社会が直面する地球環境問題の脅威を認識し、各国、地域そして世界全体のあらゆるレベルでの対応を一層強化していくことを再確認するとともに、こうした取組を国際的な協調の下で進めることの重要性を強調した。
3. 「生物多様性」「3R」「気候変動」の3つの議題が設定され、議論が行われた。また、議論に先立って、大臣及び参加者は、関係する主体（ステークホルダー）の代表との対話を行い、有益なインプットを得た。G 8の大臣及びその他の参加者による議論の要点は以下のとおりである。

気候変動

先進国と途上国の協力

人材育成・持続可能な開発のための教育（ESD）

- 1 2. 持続可能な社会を担う人材育成を進めるため、国連ESDの10年が重要であり、ドイツにおける来年3月のESDの世界会議開催が歓迎された。ESDの一層推進のため、関係主体間の協働による取組事例等の各国の優良事例の共有や、途上国と先進国間での高等教育機関及び国際機関等のネットワークによる途上国の人材育成支援が有用と考えられる。